

時事新報

大決心いよく堅し

御事文武なる我天皇陛下には此回御親征の爲め大元帥の御資格を以ていよく、昨十三日廣嶋の大本營へ御進發せ給へり往年戊辰及び西南の役に於ても錦旗の影を拜したりしが今度の戦争は素より彼の内亂の比にからず世に大國と知られたる支那の無狀を懲じ大日本帝國の威光榮を發揚す可き振古未有の盛舉にして人心一決將に國の運命を賭して窮極の大目的を貫かんとする其折衝秋風九月涼として爰に大本營を進められ天降を保有せる天皇陛下の御親征あらせ給ふ御事なれば御威徳の光六合八紘に輝きて殊に燦爛たるを覺ゆると同時に三軍の忠勇も亦必らず百倍して雷轟電掣を放りて雲を直ちには彼の大國を降服せしめんことを決して疑わらざる臣民たる者唯威徳に次ぐに涕泣を以てするの外なきは勿論ながら我輩が此回の御親征によりて更に大に心を強ふする其次第は抑も日清戦争の前途に於て常に多少の懸念ありしむるものは外國の仲裁説も國內の平和説も是れなり素より九仞の功を一簣に欠く可らず千釐の好機を一朝に失ふ可らざるが故に政府に於ても今日の場合に際しては假令如何なる調停を試みるものありとも断乎として初一念を固持し決して動搖するものなかる可きは萬々信を置くも雖も歐羅巴諸國の意向を察するときは今後に於ても亦或る時期を見計らひ好意を装ふて云々の談合を申込むも必ずしも絶無と云ふ可らず我國の之を謝絶す可きは申すもなき所なれども斯る煩悩を生ぜんは固より好まじからざる次第にして即ち何人も密に關心する所以のものなるに然るに今や大元帥陛下の御親征ありては戰争の事態も亦自から新なるを覺えて隨て諸外國の如きも日本の決心半として遂に振く可らざるを悟り例の調停説も爲めに大に氣勢を挫くもならん必竟調停なるものは交戦者の意志薄弱なるを認めて棄する者も多きものなれば今度の盛舉たる此點に於て將來に言ふ可らざるの好益あらんを信じて疑はず又國內にても或る社會に至れば一時の騒動の爲め目前に多少の損害苦痛を感ずるよりして永遠の大事は之を顧るの思慮を亂し往々私情に制せられて内々平和を斷る者もある様なれば向後何時如何なる邊より此種の談を發せんも測り難く一左る事もあらば自ら國民の一致に環堵を生ずる際にして是亦我輩の懸念に慮へざる所なりしが我天皇陛下には斯國萬靈の大事を大御心に懸けさせ給ひ臣民の最大幸福を増進せんが爲め宮城を距る三百里廣嶋の地に大旗を進められ高嶺の御不自由をも忍ばせ給ひて宵衣旰食軍國の務を御覽せ給ふを恐る事なきは吾々臣民たる者夫れ何を以て此大無量の天恩に感へ奉る可きや骨髄身を致して甘んず可きは向に國民の至情にふさわれば彼の一時平和の惡魔に惑はざらんとしてたる人々とても亦今更に感激して胸中高聲の應も拭ふが如く他人の説諭を俟つに及ばず豁然として正しく文明帝國國民たるの襟度に復するもならん百戰の勇氣も亦備ふるものにして彼に是に幾多の好望を得るに於て是れ我々臣民の御親征に在りたまふものと千祈

雑報

大元帥陛下御發聲

明治二十七年九月十三日は是れ我天皇陛下御親征の爲め大元帥の御資格を以て廣嶋なる大本營へ御進發あらせ給ふ吉日なり事は中華と自稱せる老國の安狀を懸して文明の徳澤に浴せしめんとする大業を申し時は戰争の大且つ激ならんとする急機に際して錦の御旗を進めさせ賜ふ御事なれば昊天も照覽感應まししくにけん仲秋の曉風徐ろに空を拂ふて復た一朵の襟雲を留めず七時龍旗は麗はしく御奉送の皇后陛下と御同列にて宮城正門を御出門あらせられ御陪乘は徳大寺侍從長、供奉は土方宮内大臣及今回供奉仰付られたる宮内官史并に大本營附の有栖川參謀總長官殿下と初め以下各將校次に小松近衛師團長官殿下、奥川村の近衛兩旅團長殿、嶋島參謀長各參謀官にして皇后陛下の御陪乘には室町典侍供奉は香川皇后宮大夫、三宮同亮その他侍醫女官等にて警衛八騎、近衛騎兵二中隊は槍光閃々風聲の前衛を守衛し奉り、御親征の御親征を拜觀し奉る場に御着筆在らせらるる天皇陛下の御親征を拜觀し奉るに大元帥の御親征に大勳位を佩させ長靴を穿ち給ひ又皇后陛下には海老色に菊柄を織出したる御洋服を召させられ御停車場には御見送の爲め御先着の皇太子殿下を初め奉り有栖川威仁親王殿下、各官妃殿下并に伊藤、黒田、井上、榎本、陸奥、渡邊、芳川、の各大臣、大木、松方、後藤の三伯東久世樞密院副議長、河村佐野、副議長、佐々木、田中、仁禮、尾崎、福岡、海江田、河瀬の同閣員官、藤村、錦旗兩閣員、各省文武勳章委任官、蜂須賀貴族院議長、各貴族院議員有爵華族總代、水野衆議院書記官長等數百名は衣冠正しく整列して車駕を迎へ奉りしに陛下には一々御會稱の上侍從長の御先導にて別段御休憩も在らせられ直ちに御料の汽車に召させ給ひしかば前記の百官は更に汽車寄に進みて奉送の敬禮を申上げ皇后陛下皇太子殿下は玉座に就き御告別の式を行はせ給ひたり御料の汽車には侍從長以下倍乘し御置并に御實録等は御手許に捧げ奉らせ有栖川宮其他大本營附將校伊藤、西郷、大山の三大臣等は前後の汽車に乗じ、同二十五分御進發在らせられたり昨夜は名古屋に御駐紮と承る大元帥陛下國家の大事に玉體を勞し給ふ大御心は拜察し奉らんまかくに畏し

御順路の光景

大元帥陛下の御親征として御進發あらせ給ふや昔是れ全國臣民の最大幸福を増進せんとの至仁至聖なる大御心に於て畏くも雲山萬里玉體を運ばせ給ひ軍國の務を御覽し給ふ御事なれば臣民たる者誰か感位せざる者あらん十三日み御發聲の吉日と承り錦旗の御影を拜して御威徳を仰ぎ尊體の高貴を新らばやとて黎明より御順路の筋々に子來する者引も切らず素より銀婚式等の御祝とも相異なれば賑々しき飾物等の出づ可きにあらねど目に餘るの群衆は何れも滿腔奉送の忠誠面に顯はれ復た有る可らざるの壯觀たり左に其一斑を掲げて向に空前の盛舉たるを報せん

○二重橋外 宮城正門のまとして味爽より奉送人、拜觀人の群衆最も夥しく午前六時頃にはサメモの廣場も道路を除くの外は芝生の上までも黒山と築くに至るしが殊に櫻田門に至る道路の片側には供奉近衛騎兵の一隊を始め近衛兵各隊并に陸軍樂隊執事も正服にて整列し其背後若くは前側には帝國大學、第一高等學校、東京師範學校、東京府中學校、學習院、專門學校等學校、海軍軍醫學校の官私立學校を始め日本橋、京橋本郷各區公立小學校の生徒は執事も教員附添ひ各々幾流の襟旗を朝風に翻しつゝ整列し其他には下野人奉送會等の整列せるを見受たり斯くて定刻の七時を爲るや御親征は徐々として二重橋を軋らせ御進發あらせられ樂隊は君ヶ代の一曲を吹奏して奉祝し幾許の奉送人拜觀人等が一時にドットと叫びせる萬聲の聲は幼年生徒の轟出せる唱歌の聲と相和し一齊に打振れる帽影は軍隊の高く響けたる銃聲と相映して勇しく陛下には此忠勇なる臣民の奉送を觀せ日頃にも漸増して御景色殊に麗しく最と御満足に思召さるるにやあらんと伺ひ奉れる内早くも御登は櫻田門外へ進ませられたり

○櫻田門外 近衛第三聯隊前には府下神職奉送外務省外側には府下各學校、貴族兩院の側には東京第一師團後備步兵、其前側には東京米穀取引所員が紫の大旗二旗を押し立て國民英學會會員、錦旗學校生徒等も形旗を翻し舊練兵場側には近衛第四聯隊整列し其前面には第一師團砲兵、都新聞社の入口には紅白段々の幕を打懸し其上には大なる日の出を二個紅布を以て裝飾し「奉送」、「聖駕」の文字を金銀の大旗面に書きたるは美事なり又同社の隣は國民協會の奉送場にして「奉送親征」の旗幟を押し立て掲げて府下各小學校の生徒は各自種々の旗幟を吹流し鹿鳴館前まで開闢もなく整列し風聲に敬禮を表するものと異ならず

○幸橋内外 なる舊東京府廳表門前には東京府會、市區學務委員、東京府廳官吏、神田區公民、麹町區公民等大國旗を交し補本市會議長、芳野代理者、三浦知事を始め一同小禮服或は袴羽織にて威儀正しく整列したり又錦旗邸に寄り添ひたる側にて「奉祝親征」の旗を真先に押し立てたるは立憲革新黨、次に日本橋區協會、立憲改進黨、東京實業組合、讀賣新聞社員、芝罘小學校等は各々國旗或は採旗を朝風に打なびかせたる杯最と目覺しかりし舊府廳の向ふ側より錦旗邸、鹿鳴館の前までは陸軍監督及び軍部將校下士步兵一團は整列し又幸橋外は同盟銀行、東京商業會議所員、日本郵船會社員等の奉送場にして土橋近傍は櫻田學校生徒、芝罘服木綿商組合等各旗幟を翻して立列らば北側には自由黨員、ゆきまじ新聞社員等も奉送の旗を押し立て追々御進發の時刻に近づくに従ひ四方より群衆する拜觀人は大波の如く寄せ來り憲兵巡査も殆んど制し切れざるより憲兵は馬を押付けて漸く道路を開きたる程なりし午前七時十分頃には先驅騎馬警隊の聲と共に風聲を軋らせられ金飾槍光旭日に輝きて御進發あるや大元帥陛下萬靈の聲は天地も動る計りに鳴り渡れり

○新橋停車場近傍 二重橋外にも群衆に於て「大旗親征」大元帥陛下萬靈「奉送」等の大旗を翻へし新橋方面に向け我先きに押し出したるもの頗る多くササガに廣き停車場近傍も人家橋上道路の側なく同六時頃迄には悉く人を以て填めたり尙ほ馬車人力等を驅りて追々奉送たるもの引も切らず爲めに同所近傍十數町の間は一時往來を斷る唯見る幾萬の頭蓋果々として肩摩腕擊その雜沓云はん方なく憲兵巡査等は四方に奔走し必死となりて之を制止したれども寄せては返す人波に我人も少なからず又遠處橋方側は最も停車場に接近したるより其儀最も一入にして爲めに巡査

大元帥陛下

は十四日午後四時通過在せらるるにやあらんと伺ひ奉れる内早くも御登は櫻田門外へ進ませられたり

○清軍の堡壘 川宮殿下は名古屋知事構内に奉迎せし奉る事に決した立會を繰上げて後には臨時休業する等なりと云ふ

○清軍の堡壘 川宮殿下は名古屋知事構内に奉迎せし奉る事に決した立會を繰上げて後には臨時休業する等なりと云ふ

御用船

今日迄に海防艦多きに及びしが

明治二十七年九月十三日 皇太后陛下御親征の爲め大元帥の御資格を以て廣嶋なる大本營へ御進發あらせ給ふ吉日なり事は中華と自稱せる老國の安狀を懸して文明の徳澤に浴せしめんとする大業を申し時は戰争の大且つ激ならんとする急機に際して錦の御旗を進めさせ賜ふ御事なれば昊天も照覽感應まししくにけん仲秋の曉風徐ろに空を拂ふて復た一朵の襟雲を留めず七時龍旗は麗はしく御奉送の皇后陛下と御同列にて宮城正門を御出門あらせられ御陪乘は徳大寺侍從長、供奉は土方宮内大臣及今回供奉仰付られたる宮内官史并に大本營附の有栖川參謀總長官殿下と初め以下各將校次に小松近衛師團長官殿下、奥川村の近衛兩旅團長殿、嶋島參謀長各參謀官にして皇后陛下の御陪乘には室町典侍供奉は香川皇后宮大夫、三宮同亮その他侍醫女官等にて警衛八騎、近衛騎兵二中隊は槍光閃々風聲の前衛を守衛し奉り、御親征の御親征を拜觀し奉る場に御着筆在らせらるる天皇陛下の御親征を拜觀し奉るに大元帥の御親征に大勳位を佩させ長靴を穿ち給ひ又皇后陛下には海老色に菊柄を織出したる御洋服を召させられ御停車場には御見送の爲め御先着の皇太子殿下を初め奉り有栖川威仁親王殿下、各官妃殿下并に伊藤、黒田、井上、榎本、陸奥、渡邊、芳川、の各大臣、大木、松方、後藤の三伯東久世樞密院副議長、河村佐野、副議長、佐々木、田中、仁禮、尾崎、福岡、海江田、河瀬の同閣員官、藤村、錦旗兩閣員、各省文武勳章委任官、蜂須賀貴族院議長、各貴族院議員有爵華族總代、水野衆議院書記官長等數百名は衣冠正しく整列して車駕を迎へ奉りしに陛下には一々御會稱の上侍從長の御先導にて別段御休憩も在らせられ直ちに御料の汽車に召させ給ひしかば前記の百官は更に汽車寄に進みて奉送の敬禮を申上げ皇后陛下皇太子殿下は玉座に就き御告別の式を行はせ給ひたり御料の汽車には侍從長以下倍乘し御置并に御實録等は御手許に捧げ奉らせ有栖川宮其他大本營附將校伊藤、西郷、大山の三大臣等は前後の汽車に乗じ、同二十五分御進發在らせられたり昨夜は名古屋に御駐紮と承る大元帥陛下國家の大事に玉體を勞し給ふ大御心は拜察し奉らんまかくに畏し